

(議長)

休憩を閉じて、再開致します。

日程第11、一般質問を行います。

今定例会の一般質問は、お手元に配布のとおり6名の議員から通告がありました。通告順に従って、順次これを許可致します。

(議長)

まず、室井議員の発言を許可致します。

「室井議員」

議長。

(議長)

「室井議員」。

「室井議員」

はい。

最初に高規格幹線道路、函館・江差自動車道の木古内・江差間の早期着工要請と町民運動の展開について、町長の所見を求めたいと思います。

町長は現在、檜山管内7町と木古内町を含む8町の行政経済団体関係者で構成する整備協議会の会長を務めております。構成団体のうち、経済団体の構成員、協議内容等について、議会、町民に認識されていないのが実態であると理解しております。

計画区間から整備区間認定への要請・陳情行動の詳細は冒頭申し上げた通り、パブリックコメントする段階ではないかもしれませんが、平成31年、あと2年後には函館・木古内間が供用開始される予定となっております。木古内・江差間は現在計画区間としての位置付けのみであります。計画決定された後での追加要請は、単に早期着工、早期供用開始が主体となる要請行動が現実的な対応かと思われまます。

計画決定に至る今が、非常に重要な時期であると私は認識しております。今定例会に都市計画を第18条2項に基づく、法定都市計画マスタープランを作成し、約370万円が予算計上されております。江差町中心市街地活性化を図る町づくりの根幹を形成する方向性が見える大変重要な予算計上であり、高規格幹線自動車道の江差インターチェンジの位置との関連性が極めて高いと思われまます。町長は整備協議会会長としての重責があるかと考えまます。江差町が不利益にならなく、近隣町も賛同、大きな応援を頂きやすいその方向性を明確にし、議会と共に協議を進めるべきと考えまます。町長の所見を伺いたしたいと思います。

(議長)

「町 長」。

「町 長」

室井議員の1問目にお答え致します。

高規格幹線道路函館・江差自動車道の整備につきましては、ご指摘のとおり現在木古内インターチェンジの供用開始を平成31年度に予定しておりますが、木古内・江差間につきましては、事業化区間となっていない状況にあり、この間私が会長を務める協議会の他、函館市長が会長を務める期成会、あるいは檜山町村会が所管する檜山地域振興協議会にて、当該区間の整備促進について、関係機関へ要請行動を行ってきたところでございます。

議員ご指摘の早期着工要請と、町民運動の展開につきましては、まずもって、現在の計画区間から事業化区間への昇格と、江差町側からの工事着手について強力に要請して参りたいと考えております。

また、ルートの在り方等に関する町民を巻き込んだ運動の展開につきましては、この次の段階で取り進めて参りたいと考えています。

いずれに致しましても当該路線の早期事業化区間への昇格に向けて、近隣町と、近隣町や他の団体との連携はもとより、議会や町民の皆さんとも歩調を合わせ官民一体となった地域の声を伝える努力を行って参りたいと思っておりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

(議長)

はい、「室井議員」。

「室井議員」

はい。再質問させて頂きたいと思えます。

冒頭申し上げたとおり、高規格幹線道路の早期着工、早期供用開始、しかも江差町側からの事業着手の強力な要請活動を行う上で、極めて重要かつ現実的な対応として近隣町との連携と共に、有利となる、お互いに有利となる整備計画の要請行動が絶対的な条件であると私は認識致します。

江差町内に自動車道の利用率向上を考慮し、北部地域に1カ所、北海道の歴史文化遺産の宝庫である南部地域に1カ所、合計2カ所のインターチェンジの設置をしっかりと胸に秘め、堂々と要請行動をするべきだと考えます。江差町の中心市街地が通過市街地なるような事態は絶対に避けなければならないと思っております。計画区間からの整備区間策定までのフローには時間的余裕が極めて少ないと考えます。私も議員として、また、政党支部の責任者として、江差町の将来を思い、全力で汗をかく覚悟ですので、現段階で江差町長としての答弁を可能な範囲でして頂きたいと思えます。以上です。

(議長)

はい、「まちづくり推進課長」。

「まちづくり推進課長」

高規格道路江差、函館・江差自動車道につきましては、実は今、全国で57の路線が同じような事業化、事業化区間に向けた競争をしている最中でございます。

先程町長の答弁にもありましたが、まずもっては行政と致しまして、事業化への要請、これにまず取り進めて参りたいなということを1つ申し上げたいと思います。

それと議員ご指摘の、インターチェンジの関係でございますが、概略ルート設計の段階でこれから色々と議論があります。また先程の町長の執行方針にもありましたが、今年都市計画のマスタープランも策定されるということですから、その辺の整合性を図りながら本当にとって有意なですね、状況を作り上げると言ったことを考えていきたいと思っておりますので、引き続きご支援の程、宜しくお願い致します。

(議長)

はい、いいですか。

「室井議員」

議長。

(議長)

はい、「室井議員」。

「室井議員」

あの、課長。私はですね、がっちり援護射撃をしたいなと、そういう思いで今、前提で、質問させてもらっております。

2月ですね、19日。私は、政党支部の責任者として、衆議院議員に要請書を送りました。良いですか、課長、よく聞いてください。翌20日、月曜日、政策秘書の方から、私に電話ありました。金曜日ですよ、3月3日、午後5時22分、何て電話かということ、国土交通省、霞が関の北海道局、道路局並びに函館開発建設部の方に全て要望を伝えてあります。翌日の、4日お昼12時10分にも、代議士本人から電話ありました。国交省の関連部局全てに要請しました。また国交省の国土交通委員会の委員として、4年間頑張ってきたので、同僚が皆応援しております。

更にですね、町長。江藤征四郎さんご存知ですか。あなたの大先輩ですね、ね。早稲田の政経ですよ。29歳で当時は全国最小年の町長です。そして参議院議員行って、今衆議

院議員 1 1 期やっています。この方今、全国の高速道路の議員連盟の会長やっていますね。この方にも代議士、伝えてあります、言っています。だから早い時期に、8月なるとですね、概算要求締めるのです、国は。早い時期に、江差町の要望、住民を交えたですね、そういう期成会なりを作って、早いところに、町長、要望に行つて良いのではないですか。江藤議員すごいですよ。色々な会長いっぱいやっていますよ。この方は、ちゃんと江差のこと伝えてあると言っているのですよ。私は、堂々と江差町は江差町、関係町と連携取るところは連携取る。江差町が不利にならない、江差町のためになると思ったら、町長我々も巻き込んで堂々と要請行動しませんか。いかがですか。3問目ですから最後の質問だと、見させてもらいます。

「町 長」

議長。

(議長)

はい、「町 長」。

「町 長」

今、室井議員から高規格幹線道路に関するお話、特に力強いご支援を頂けるというお話を頂きました。とてもありがたいことだなという風に思っております。色々なチャンネルを使いながら、この区間が非常に大事な区間なのだとということをしっかりと、ストック効果、どのようにその道路が出来ることによって、この地域に経済効果を及ぼすかということ、しっかりと伝えて、必要なのだと、費用対効果でも、ここは必要な区間ですよ、ということを理解して頂きながら、色々な所に要請活動を行つて参りたいなと思います。私が、会長を務める協議会も、もっともっと多くの民間の皆さんに入つて頂くということで、近隣町にも声をかけて拡大をしよう今働きかけをしているところでもございます。是非ですね、官民一体となった取り組みをして、そして中央へもしっかりと私がリーダーシップを発揮して、先頭に立つてやっていきたいと思っておりますので、今後ともご支援宜しくお願ひします。

(議長)

はい。室井議員、今度2番目の質問。

「室井議員」

はい、すみません。

「室井議員」

簡潔にいきたいと思います。

2問目はですね、事故があつて、大変困っているなど思っていますけれど、国道228号線、田沢・伏木戸間間の道路整備改良事業の、改良事業の要請をお願い、質問したいと思います。

本年2月1日、2日に連続して多重衝突交通事故が発生しております。過去には、私の知っている範囲では2度の死亡事故があり、毎年車同士の衝突や路肩転落事故等が発生しており、交通事故多発区間と言っても過言ではないかと思ひます。

また、子どもたちを送迎する父母からは、事故の発生が怖く、時間が多くかかつても旧国道、現町道尾山・湯の浜線、田沢野線を通して送迎しているとの話もありました。

私には、その原因究明するには出来ませんが、道路の勾配、凍結、急カーブ、強風等の影響も大きいと思ひれます。基本的解決には、国土交通省としても、論理性が必要とされ時間と莫大な財源確保が必要とされるのではないかと思ひます。

そして、江差町としては、高規格幹線自動車道路との絡みもあり、大規模道路改良工事の要請行動には十分配慮したものでなければならぬのではないかと考えております。交通事故防止対策の、が最優先であることは言うまでもありませんが、事故を未然に防ぐ対策と協議を現地事情に詳しい函館開発建設部、江差道路事務所と十分協議し、密に相談をして頂きたいと思ひますが、町長の所見を求めたいと思ひます。

(議長)

はい、「町長」。

「町長」

室井議員の2問目、国道228号線田沢・伏木戸間間の道路整備について、ご答弁申し上げます。

当該路線につきましては、ご案内のとおり、地域の通勤や登下校、或いは函館圏への移動に関する主要な幹線道路として、交通量が非常に多い路線であると共に、重要な路線であると認識しているところでございます。

議員ご指摘の田沢町から伏木戸町間の登坂車線につきましては、路線の線形や勾配等の問題もあり、特に冬期間は路面の凍結や強風等により、危険な状況にあることも散見され、交通事故の未然防止の、対策の観点から早い機会に函館開発建設部江差道路事務所と協議を行って参りたいと考えておりますので、ご理解の程、宜しくお願ひ申し上げます。

(議長)

はい、「室井議員」。

「室井議員」

はい。

事故があった、翌日の2月3日に、あの現地事情を一番よく知っている方に、私をお話したら、連絡が私のところに連絡がございました。その日のうちに、現地の最高責任者から、事故が発生して大変申し訳ないと、特殊融雪剤等を散布して出来る限りの対策を講じたいと、非常に、丁重な連絡がありました。私は、それ以上お礼を申し上げただけで、それ以上の言葉はありませんでした。

事故はですね、起きている個所はだいたい限定されているのです。いつも毎年同じような個所で事故が発生しているのです。町長は、高規格幹線道路の要請行動が今いっぱいだと思いますけれども、軸足を、どっちに今置くべきか、きちっと考えて、その対策を講じるべきであり、担当課長さん、役場の皆さんのですね、皆さんの、役場の皆さんですよ、担当課長だけでない、皆さんの政策能力というものを今試されていると私は思っております。

町長は、所信表明でオバマ大統領の横文字を使いましたけれど、私は何てあのお歳なもので横文字は使わないで、古いですね、故事のことわざの中から、二兎を追うものは一兎をも備えずということわざがありますね。全くポピュラーなことわざです。でも、現段階で、今江差町が、どっちにシフトして、対応を、早期対応を考えるかということは、まさに政策能力が試されている、こういう風に判断致します。十分、庁内での議論、進めてもらいたいと思いますが、如何でしょうか。

(議長)

はい、「まちづくり推進課長」。

「まちづくり推進課長」

先程の高規格道路、或いはインターチェンジの場所、それらを踏まえての、あのご指摘だと思います。

先程、二兎を追うものは一兎をも得ずという言葉もありましたが、正しくその高規格道路、或いは今これからその伏木戸・田沢町間の安全対策、どちらも思いっきりアクセルを踏むとなると、恐らく国側も、非常に財政負担も伴うということで大変だと思います。まずは、田沢・伏木戸町間につきましては、議員ご指摘のとおり、あの交通事故の未然防止対策といった観点でどのような方策があるのか、これからあの建設水道課とも協議して、江差道路事務所と相談して参りたいと思います。宜しくお願い致します。

「室井議員」

議長、ちょっと。

(議長)

はい、「室井議員」。

「室井議員」

課長、そのとおりなのだよ。明解な答弁なのだよ。そういう風な考えを、基本に持ってやってもらいたいと思うし、今回ですね、ニシンも100何年ぶりで江差の浜に寄った。そして、今までにない、都市計画マスタープランの策定、その予算も載った。まさにそういう動く、形になるのはこれから少し時間かかるかもしれませんが。でもそういう動く場面であるということを、肝に銘じて、担当課長だけでやらないで、課長会議の場で、みんな議論して対応しなければなりませんよ。高規格道路、他人事だと思っってはなりませんよ。2月9日、町政執行、町長の行政報告、執行方針の中で、北海道防災会議出ましたね。水位予測15メートル、15.8メートルでしょ。江差町は。このことを踏まえて、今、高規格幹線道路の早期着工、江差側からの早期着工を要請する、全くいい機会だと私は認識しているのですよ。

まちづくり推進課長、建設水道課長に任せないで、役場の課長会議、何のためにやるのかわからないけれど、その中でね、町の将来考えて、しっかり課長同士ですね、意見の食い違いあっても、どんどん良い方向に提言できるように頑張ってもらいたいと思いますけれど、副町長、何かありますか、最後。

(議長)

はい、「副町長」。

「副町長」

今のあの田沢・伏木戸間については、まずは交通安全の未然防止対策で私共も素人でございますけれども、それは議員ご指摘のように、風の問題、それから勾配の部分でのブレーキをかける部分でのいわばあのアイスバーンになるとか、そういったところでのまず当面の部分での対策がどういう風にできるのかということで、道路事務所とまずやっていく。ただし、この今おっしゃる通り、高規格幹線道路の部分については、今、図らずも、室井議員おっしゃるように、津波のハザードマップも出ました。そういった、いわば減災・防災の観点もまた軸として追加しながらの要請の分になる、このように思っていますので、全力を挙げさせていただきます。はい。

「室井議員」

よし、わかった。はい。ありがとうございます。終わります。

(議長)

以上で、室井議員の一般質問を終わります。